

## 「瀬戸内海底探査船美術館プロジェクト」について

「瀬戸内海底探査船美術館プロジェクト」とは、瀬戸内国際芸術祭 2010 から日比野克彦氏がスタートさせた「海の中、海底」という見えない近くの世界を想像するプロジェクトです。瀬戸内国際芸術祭 2016 では、次の3つの作品から構成されました。

### ①海底探査船美術館 一昨日丸（おとといまる）

（瀬戸内国際芸術祭 2013～継続作品）

海底から引き揚げられた遺物とその関連の品々が展示された海の上に浮かぶ美術館。遺物を鑑賞し、船の下の海を想像しながら、太古からの海と命のつながりに思いをはせる。



Photo:Kimito Takahashi



Photo:Kimito Takahashi

### ②ソコソコ想像所

（瀬戸内国際芸術祭 2013～継続作品）

海底遺物に思いを巡らせ、遺物を見ながら自由に想像する。見えない海の底と陸とのつながりや、はるか昔の私たちの祖先や地域のあらゆる時代とつながることを認識させる。

### ③Re-ing-A（レインガ）

（瀬戸内国際芸術祭 2016 作品）

粟島沖に浮かぶ二面島の海底に沈んだレンガ船からレンガを引き揚げ、赤レンガの構造物を制作した。像をモチーフにしており、西浜の海上に設置された。



作家略歴	<p><b>日比野 克彦</b>（ひびの かつひこ）</p> <p>1958年岐阜県生まれ。東京藝術大学大学院修了。現東京藝術大学美術学部長。国内外で個展・グループ展を多数開催する他、パブリックアート・舞台美術など、多岐にわたる分野で活動中。近年は各地で一般参加者とその地域の特性を生かしたアートプロジェクト・ワークショップを多く行っている。瀬戸内国際芸術祭 2019 に参加が決定している。</p>
------	--